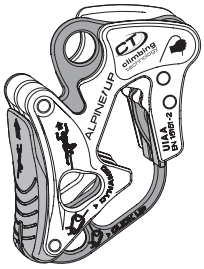
要保管

ALPINE UP KIT
クライミングテクノロジー
アルパインアップキット

3年保証
MADE IN ITALY
Patented



クライミングテクノロジー
「アルパインアップキット」取扱説明書

製造元:イタリア・アルデザイン社
（商標名:クライミング・テクノロジー）
輸入販売元:イワタニ・プリムス株式会社
東京都中央区八丁堀4-12-20
電話番号03-3555-5605
イタリア製
商品名:アルパインアップキット（アルパインアップ本体、ロッキングカラビナのセット）
素材:アルパインアップ本体：アルミ合金製（一部プラスチック部品を使用）／重量：180g、ロッキングカラビナ：アルミ合金製

はじめにお読みください

登山、クライミングは一般的に他のスポーツに比べ、リスクの高いスポーツです。クライミング用品を使用しても登山、クライミングには潜在的な危険が伴います。ご自分自身の安全のため、クライミングを行うかどうかの判断はご自分で下してください。本製品を使用する前には必ず本取扱説明書をよく読み、本製品の特徴や注意事項をよく理解して使用してください。実際の使用の前には本製品の使用方法に十分に慣れることが必要です。また、クライミングに際しては安全確保に対する幅広い知識が必要であることを認識し、考えられうる事故に備えなければいけないことを考慮してください。

この取扱説明書はご使用の前によくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みいただいた後はいつでもご覧になれる所に保管してください。最新の情報や、その他の補足情報、及びその他の言語での取扱説明は、www.climbingtechnology.comにて確認してください。

⚠ **警告** 本説明書の正しい取扱方法に従わない場合、死亡または重大な傷害を負う恐れがあります。

表示内容

⚠ **危険**:人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容です。
⚠ **警告**:人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ **注意**:人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容です。
⊘ **禁止**:やってはいけないことを表しています。

⚠ **警告** 登山･クライミングの前または最中には、アルコール、向精神薬、その他知覚、認知、バランス感覚、集中力に悪影響を与える食品や薬品等の摂取を行わないでください。

本製品（アルパインアップキット）ご使用に際しての注意事項＜必ずお読みください＞

この注意書は、アルパインアップを登山、クライミングで正しく使用するための注意事項が書かれています。誤った使用方法、不適切な使用方法は、死亡または重傷を負う恐れがあります。この器具を使用する人は、使用方法を習熟しておく必要があります。使用者は使用方法（器具の使用方法および安全確保に関しての正しい措置）についての充分な習得が必要です。多くの誤った使用方法がありますが、この説明書にはその誤った使用方法を一部のみ図解しています。本取扱説明書に記載のある正しい方法でのみ使用してください。他の方法による誤った使用方法は禁止いたします。使用者はクライミング、岩登り等での実際の使用における生命および身体に対するリスクをあらかじめ認識してください。正しい使用方法を習得しない、またはリスクを認識しない人、登山、クライミング全般に対する知識を有しない人や安全確保を行えない人は、本製品を使用してはいけません。製造元、販売店、輸入代理店は、誤った使用方法や不適切な使用方法に起因するすべての事故に対し一切の責任を負いません。

本取扱説明書は、登山、アルパインクライミング、スポーツクライミング用品の正しい使用方法などについて説明を行うものです。それらに関する専門的用語が用いられています。語句の内容が理解できない場合は本製品を使用せず、まずクライミング講習等を受講してください。またクライミングには安全を確保するための正しいロープワークが必要です。これらが行えない場合は危険ですのでクライミングを行わないでください。また、クライミングは、

クライミングについての知識や技能、およびその安全確保について十分な知識を持ったクライミングパートナーと一緒に行ってください。

> ⚠ **注意** 説明書は見やすさを優先しており、素手で表記してあります。実際の使用に際してはクライミングのビレイ用手袋等を使用し、手を保護してください。

1.アルパインアップについて(特許取得済み)

1．使用できる環境　本製品(アルパインアップセット)はアルパインまたはスポーツ(スポート)クライミング向けに１ピッチからマルチピッチに対応するビレイ･ラペル(懸垂下降)器具です。使用できるロープはシングル、ハーフ、ツインロープとなりますが、使用するロープにより使用方法は異なります。使用する環境(実際のフィールド)に応じ､｢クリックアップモード｣と｢ダイナミックモード｣､｢ガイドモード｣の三つのビレイ方法を選択できます｡｢クリックアップモード｣は、クライマーがフォール(墜落)した際、器具がロープをセミロックする構造で、アンカーやプロテクションに強いテンションがかかります。このため、この｢クリックアップモード｣は、ボルト留めがしっかりなされたアンカーや支点を使用したスポーツクライミングルート､またはジムクライミングでご使用ください。UIAAの基準により、アンカーまたは支点に20kNの力がかかっても問題ない場所に使うことを前提に設計されています。

> ⚠ **警告** 本製品(アルパインアップキット)の｢クリックアップモード｣は、クラシックルート、アドベンチャー用途には適しておりません。万一使用すると、プロテクション等が脱落し、クライマーが落下し、死亡または重大な傷害を負う恐れがあります。

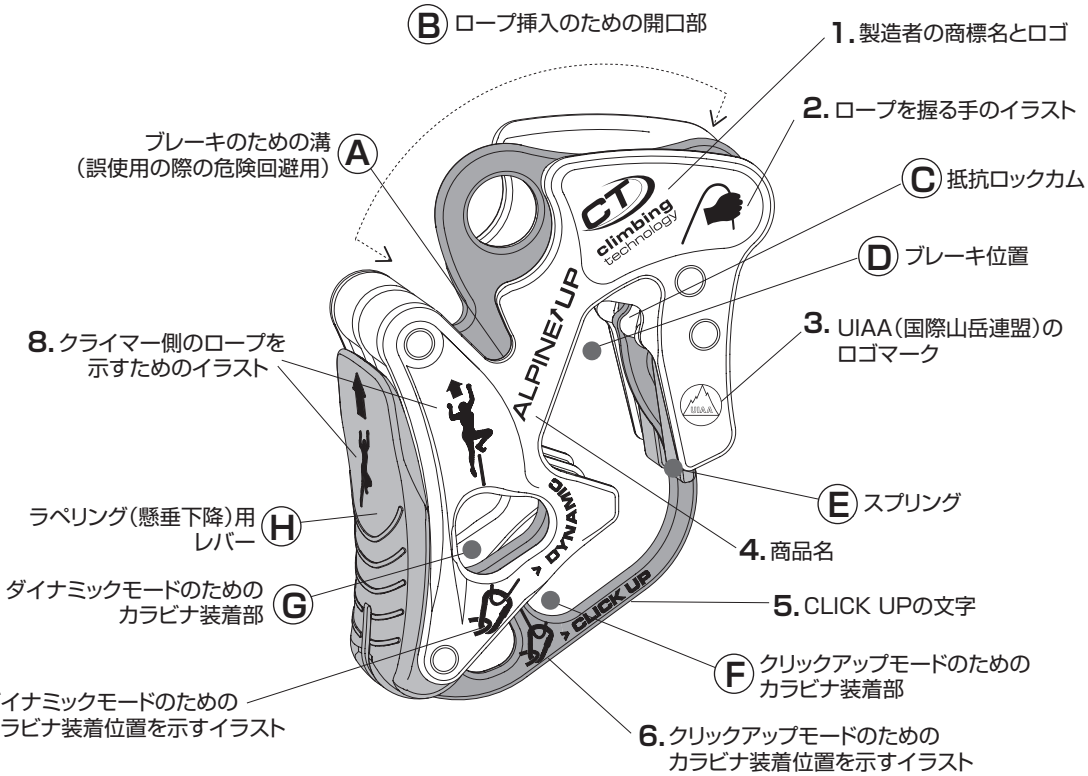
> ⚠ **注意** ダイナミックモード(マニュアルブレーキ)とは、アドベンチャー施設、クラシックルート、ナッツ、カム、ピトン、ナチュラルプロテクション等を用いるクライミングでの使用方法を指します。

2.各部の名称と表示について(図ア)

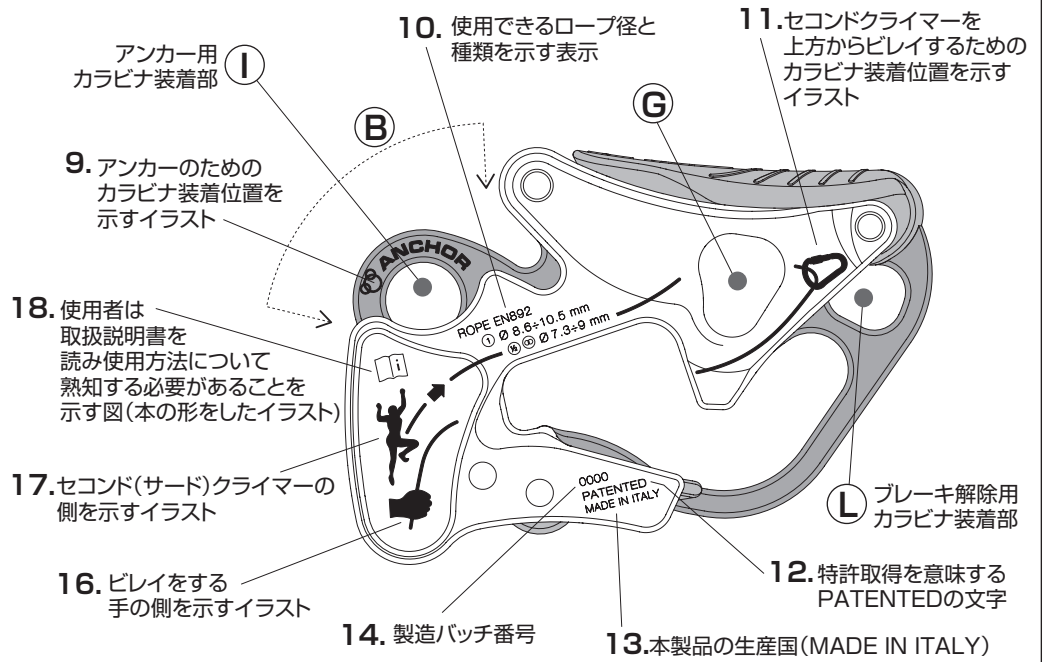
本製品(アルパインアップ)のAの面(**図ア-1**)には、リードクライマーを二種類のビレイ方法でビレイするイラストが表示されています。Bの面(**図ア-2**)には１名または２名のセコンドクライマー(サードクライマー)のイラストがあります。

2.1　各部の名称と表示(図ア-1、2)

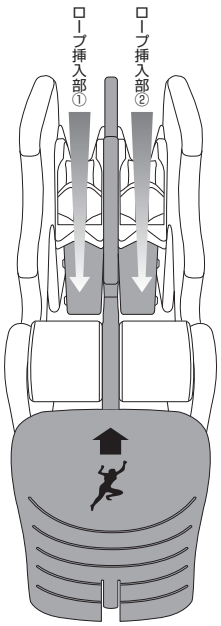
図ア-1



図ア-2



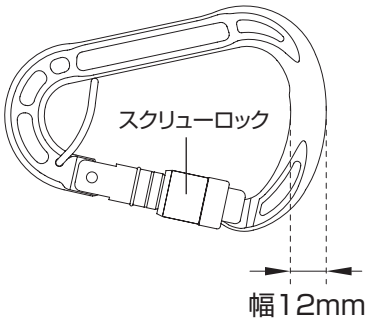
図ア-3



⚠ **注意** アルパインアップ本体にはロープを二本装着できます。二本使用するときは左･右それぞれのロープ挿入部にロープを一本ずつ挿入してください(**図ア-3**)。

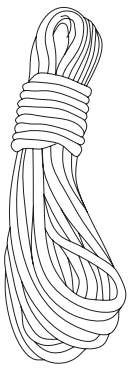
図イ EN892の適合を受けたシングル、ハーフまたはツインロープをご利用ください。二本のロープで使用するときは図ア-3の右･左に分けてロープをセットしてください。

〔ロッキングカラビナ〕～HMS(洋ナシ)型



アルパインアップ本体には付属のロッキングカラビナ商品名「コンセプト SGL HC(スクリューゲートロック･ハードコート)」を必ずご使用ください。このカラビナは熱鍛造製法で作られ、表面にハードアノダイズド加工が施されたアルミニウム合金製です。スプリング機構を持っており、ビレイヤー側のビレイループに取り付けるとカラビナの回転を防ぐことができます。アルパインアップをクリックアップモードまたはダイナミックモードで使用する時はビレイヤーのハーネスのビレイループに接続して使用します。セコンド、サードクライマーを上方からビレイする時はこのカラビナは本体**図ア-2の**①の穴に装着します。

別売品

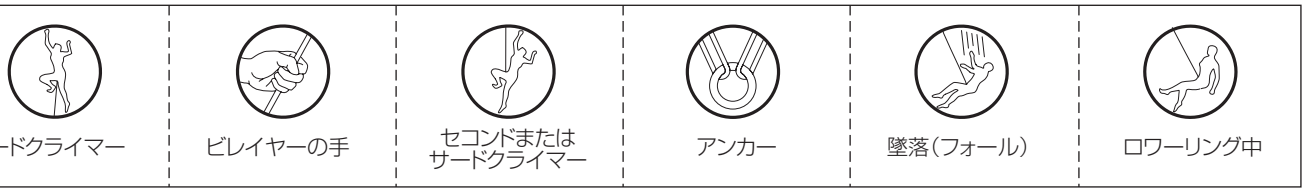


岩登り用ロープとして日本で認定を受けたダイナミックロープをご利用ください。EN892／UIAA準拠のロープと組み合わせてお使いください。

½ ⓪⓪ (ダブルまたはツインロープ)=
ロープ径7.3～9.0mm
①(シングルロープ)=
ロープ径8.6～10.5mm

2.2 本取扱説明書の表示に関して

図ウ



3.製造バッチ

本製品には製造バッチ番号の表示があります。製造バッチは**本体図ア-2の14**に0000(数字)の形で表示されます。

4.適合性について(図イ)

この器具とあわせて使用するクライミング用品について、正しく機能させられるかどうか検証を行ってください。

4.1　ロープ

本製品(アルパインアップ)にはEN892適合ダイナミックロープをご利用ください。ダブルまたはツインロープでは直径7.3〜9mm、シングルロープでは直径8.6〜10.5㎜のものを使用してください。ロープの太さや種類により柔軟性やすべりやすさに違いがあり、ビレイに影響を与えます。また真新しいもの、表面加工の種類や程度、防水加工済ロープ、濡れたり凍ったりした場合などの条件でも柔軟性やすべりやすさは変わります。

⚠ **注意**　二本のロープを同時に使用する時は、同じ直径で同程度の状態のロープを使用してください。

⚠ **注意**　セミロック状態を利用して懸垂下降を行う際は二本のロープ(ダブルまたはツイン)でおこなってください。シングルロープでマルチピッチの懸垂下降を行うとロープを傷める原因となります。

4.2　ビレイ用カラビナ

アルパインアップには付属のロッキングカラビナ「コンセプト SGL HC(スクリューゲートロック･ハードコート)」をご使用ください。このカラビナは熱鍛造製法で作られ、表面にハードアノダイズド加工が施されたアルミニウム合金製です。スプリング機構を持っており、ビレイヤー側のビレイループに取り付けるとカラビナの回転を防ぐことができます。この付属のロッキングカラビナは､「クリックアップモード」で使用するときは**本体のⒻ**へ､「ダイナミックモード」で使用するときは**本体のⒼ**に装着してください。またセコンドクライマー、サードクライマーの二人をビレイする「ガイドモード」のときは、ビレイステーションにおいて、**本体の①**に装着し、スリングを利用してアンカーに接続してください。

4.3　セコンド(サード)クライマーをビレイする(ガイドモード)

セコンドクライマー、サードクライマーをビレイするときは、**本体の①**の部分に付属のHMS(洋ナシ型)カラビナを装着し、別途用意したカラビナは**本体のⒼ**に装着します。

4.4　その他に使用するカラビナ

状況に応じて付属のロッキングカラビナの他に、HMSロッキングカラビナ、ノンロッキングカラビナが必要となります。

4.5　使用するロープについて

本書では状況に応じて一本または二本のロープの使用ができます。ダブルまたはツインロープで二本のロープを使用するとき、二本のロープはアルパインアップ**本体のⒷ**の部分の右と左のロープ挿入部に一本ずつロープが装着されていることを確認してください(**図ア-3**)。セルフロックのためにはスリングロープを使ってプルージックヒッチなどのフリクションヒッチを適用し、安全のためのバックアップを取ってください。

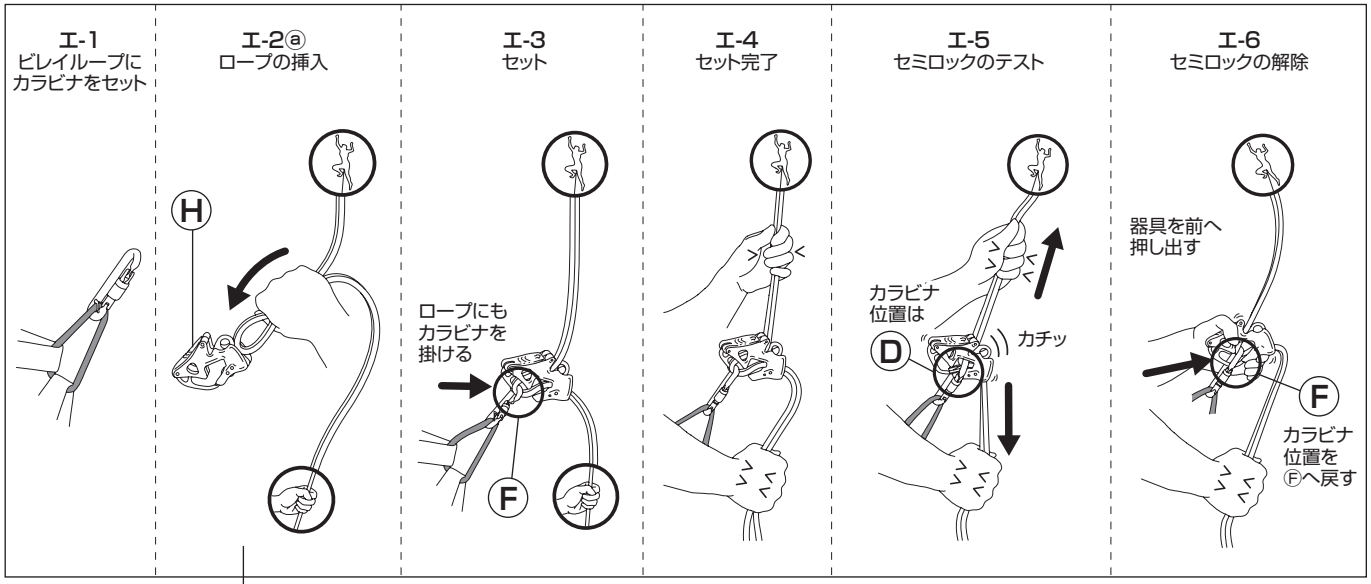
5.使用前点検について

実際に使用する前に、すべてのクライミング用器具が最善の状態であることを確認してください。磨耗がひどかったり、ひび割れが見られたり、亀裂が入っていたり、ささくれているような場合は使用を中止してください。特にブレーキ位置Ⓓと抵抗ロックカムⒸを入念に点検してください。そしてスプリングⒺを指で押してバネが利いているか、スムーズな反発力があるかを確かめてください。ラペリング(懸垂下降)用レバーはスムーズに開き、手を放すと元の位置に戻るか確認してください。使用するHMSカラビナ(洋ナシ型カラビナ)のロープがスライドする部分が磨り減っていないか確認してください。

6.クリックアップモード～装着とセットアップ(図エ)

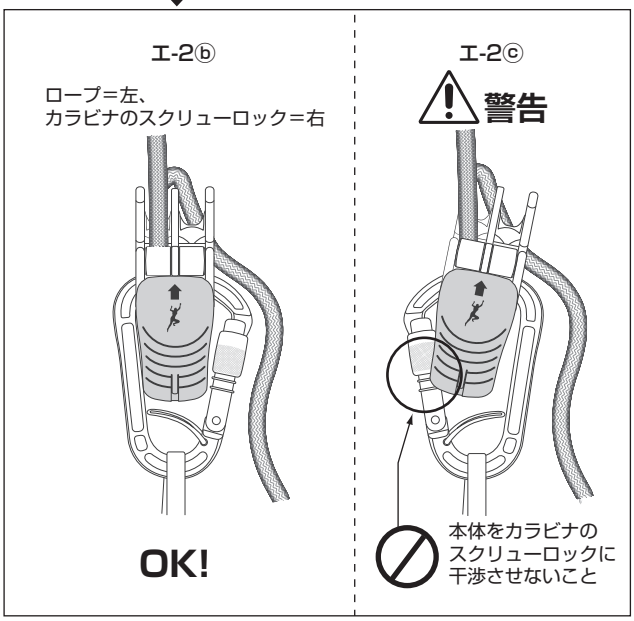
6.1　装着　ハーネスのビレイループにカラビナを接続します。カラビナのスプリングバーを開けビレイループに固定されるようにします(**図エ-1**)。ループ状にしたロープを本体のイラスト表示(**図ア-1**、**ア-6**、**ア-8**)を参考にして**本体**Ⓑの位置に挿入させます(**図エ-2**)。カラビナを**本体**Ⓕに入れ、Ⓑから挿入したロープを掛けてスクリューをロックします(**図エ-3**)。この時アルパインアップ**本体の8**のクライマーのイラストが、ビレイヤーの正面に見えており、そこから出たロープがクライマー側につながっていることを確認してください。これで準備が整いました(**図エ-4**)。

図エ　この方法はスポーツクライミングルートで利用できます。クライミングを始める前にクライマーとビレイヤーはお互いにロープおよび器具の安全点検を行って下さい。



⚠ 警告　ビレイヤーはクライマーをビレイしている間、末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。

⚠ 警告　シングルロープを使う際には、ロープ挿入部Bにある二つのロープ差し込み口のうち、左右どちらかにロープを挿入しますが、この時、ロープから遠い側にカラビナのスクリューロックが来るようにカラビナをセットしてください(**図エ-2**ⓑ、**エ-2**ⓒ参照)。



6.2　セミロック状態の機能テスト(図エ-5)

本製品(アルパインアップ)を実際に使用する前に、正しい装着が行えていること、並びに正しく機能することを確認してください。実際にクライマーが登高を始める前に、ビレイヤーは、本製品をセットし、自身のハーネスに装着したら、片方の手で末端側のロープを下方向にしっかりと握ります。そしてビレイヤーはもう片方の手でクライマー側のロープを勢いよく引き、ここでロープがセミロックされ、カラビナが**本体Ⓓ**の位置に動き、「カチッ」という音がなることを確認してください。**本体Ⓗ**のレバーにあるクライマーのイラスト(**図ア-1の8**)がビレイヤーの正面に見える位置にあることを確認してください。

> ⚠ **警告**　本製品(アルパインアップ)使用中には、本体の内部には指を入れないでください。指を入れるとクライマーの墜落等によりロープ位置が動き、指を骨折、または大きなけがを負う恐れがあります。

6.3　セミロックを解除する(図エ-6)

墜落を止めた後や、休憩のためにセミロックさせた後にロープをリリースする場合でもビレイヤーはクライマーをビレイしている間、末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。そして反対側の手で本製品(アルパインアップ本体)を図のようにしっかりと握り、前に押し出すようにすればセミロック状態になっているロッキングカラビナがⒻの位置に戻り、セミロックが解除され、ロープをリリースできます。

7.クリックアップモード～リードクライマーをビレイする(図オ)

ビレイヤーははじめに自分自身の安全が確保されていることを確認してください。場所に応じ、ビレイヤーはセルフビレイを取ってください。次にリードクライマーの安全を確認します。次にロープが完全に解けた状態であること、絡みを引き起こすねじれがないことを確認します。ビレイヤーは足元の安定した場所を確認し、転んだりものや岩にぶつからないように注意を払い、リードクライマーのクライミングを阻害したりクライマーに無理な力がかからないようにしてください。

> ⚠ **危険**　マルチピッチルートを登る際、新たなピッチを登高する際は、アンカーや支点からそのルートに向かう方に必ず支点を取ってください。新たなピッチの方向に支点を取らない場合、クライマーが墜落したときにロープが長く出た状態となり、グランドフォール、または岩壁や岩への激突により、死亡または重傷を負う恐れがあります(**図オ-6**、**図オ-7**)。

7.1　ロープを繰り出す

ロープを繰り出していくには(**図オ-1**)、ビレイヤーが握っているクライマー側のロープを送り出す様にします。ビレイヤーのもう片方の手で握っている末端側のロープを本製品(アルパインアップ)に滑り込ませるようにしてロープを繰り出します。この時、ロッキングカラビナはロープを繰り出せる位置(ロックかかかっていない位置)である**図エ-3のⒻ**の位置にあるようにしてください。

> ⚠ **警告**　ビレイヤーはクライマーをビレイしている間、末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。

7.2　ロープをたぐる(図オ-2)

クライマーがクイックドローへロープをクリップした直後など必要以上にクライマー側に出たロープを引くためには、クライマー側の余分なロープを引き寄せ、反対の手で末端側のロープを下方向へ引きます。

> ⚠ **警告**　ビレイヤーはクライマーをビレイしている間、末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。

7.3　フォール(墜落)を止める(図オ-3)

末端側ロープをしっかりと握り、下方向に引いておきます。クライマーがフォール(墜落)した時「カチッ」という音がなりセミロックがかかります。

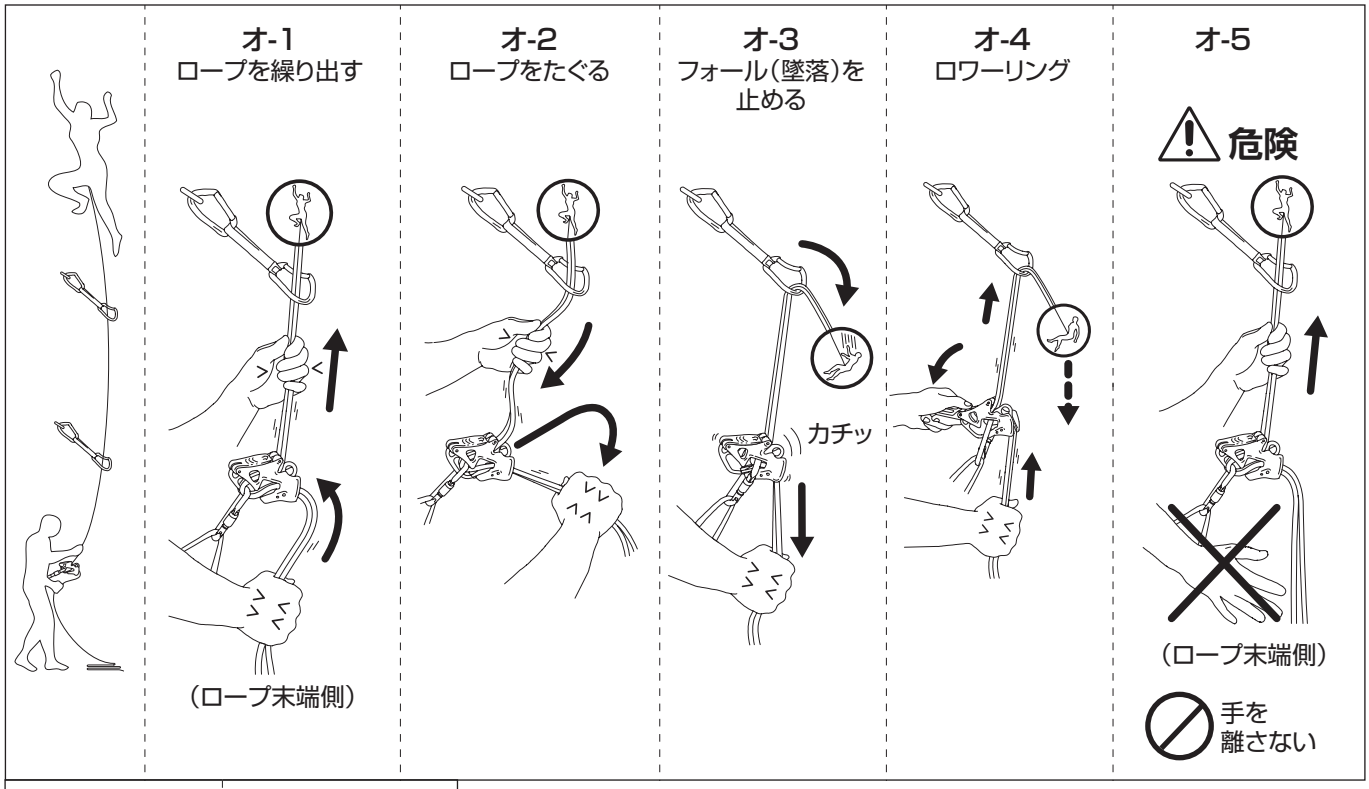
> ⚠ **注意**　本製品(アルパインアップ)を手で持ってはいけません。必ずロープを握ってください。

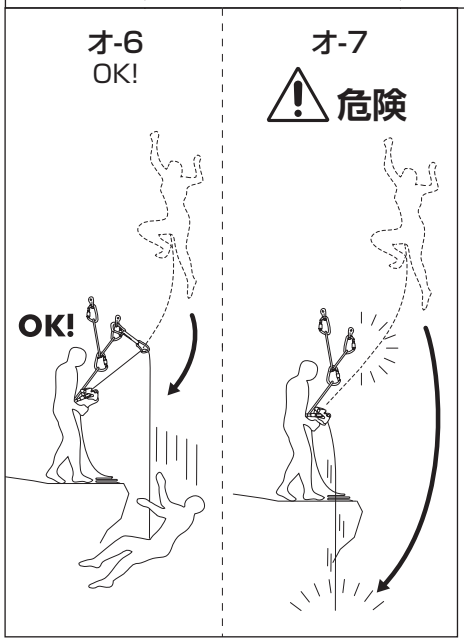
7.4　ロワーダウン(図オ-4)

墜落を止めてセミロック状態の時や、休憩のためにセミロックさせた後にロープをリリースする場合、ビレイヤーはクライマーをビレイしている間、末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。そして反対側の手で本製品(アルパインアップ)の**本体Ⓛ**のレバーを持ち上げ、そのまま開いた方向にレバーを少しずつテコの原理で押し下げることでロープをリリースできます(**図オ-4**)。ロープを出したくない時にはレバーを押さえていた手をゆるめ、セミロックを利かせることができます。クライマーを安全な場所まで下すことができたら、**手順6.3**の要領でセミロックを解除してください。

> ⚠ **警告**　ビレイヤーはクライマーをビレイしている間、末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。

図オ　クリックアップモード～クライミングを始める前に器具が正しく機能するかの点検を行ってください。ビレイヤーはビレイ中は末端側のロープを絶対に離してはいけません。

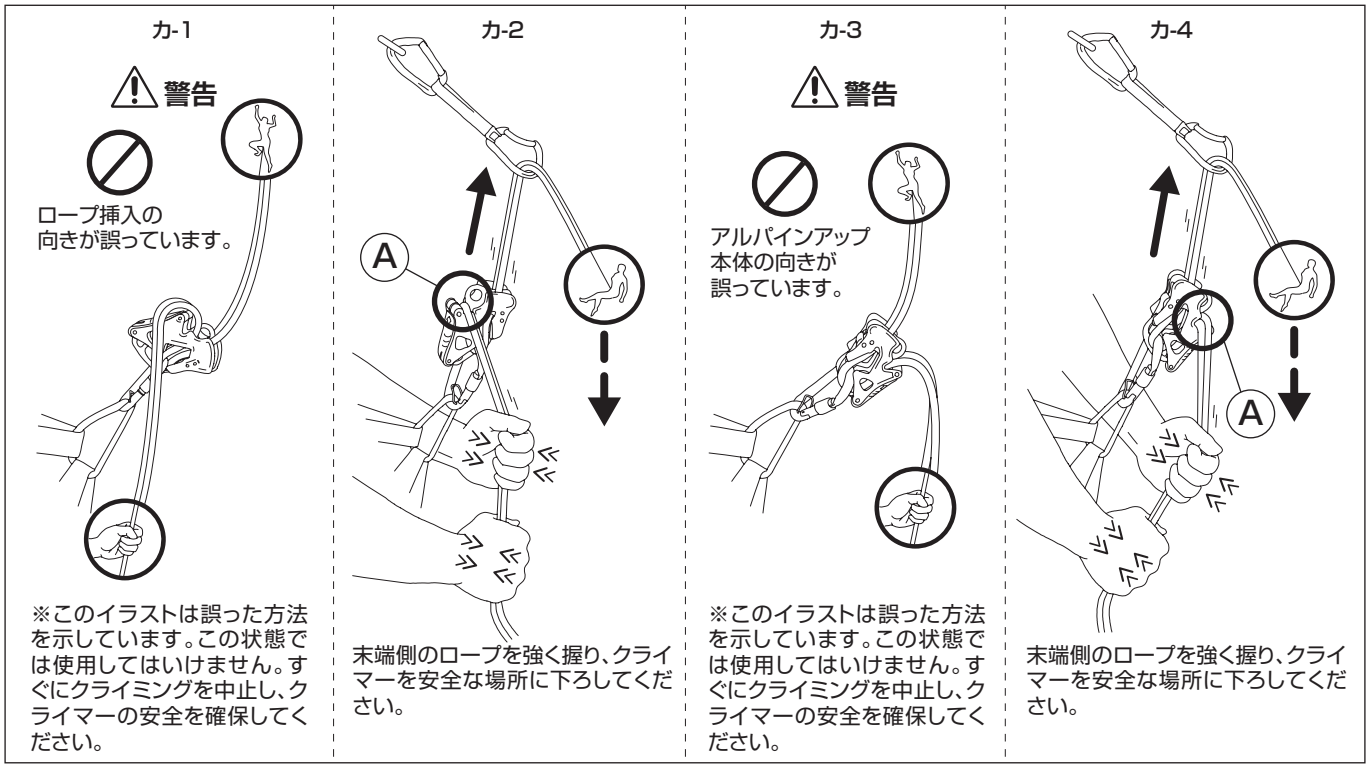




8.ロープ装着が正しくない場合のロワーダウン方法(図カ)

もしクリックアップモードでセットしたつもりであって、ロープが器具に正しくセットされなかった(**図カ-1**または**図カ-3**)場合、本製品(アルパインアップ)は機能せず、大変危険です。誤った使用方法にビレイ中に気が付いたとき、登高を中止し、クライマーを安全な場所に下すことが必要となります。この時、末端側のロープは両手で確実に握ってください。この場合、**本体Ⓐ**のブレーキ用切り込みにロープをはめ、両手で末端側のロープを握り、器具側に少しずつ慎重にロープを繰り出すようにします(**図カ-2**または**図カ-4**)。少しずつロープを繰り出し、ゆっくりとクライマーを下ろします。

図カ



9.クリックアップモード～トップロープでクライマーをビレイする(図キ)

⚠ **警告** ビレイヤーはクライマーをビレイしている間、末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。

⚠ **危険** ビレイ中に末端側のロープから手を放すと(**図キ-3**)、クライマー墜落の際に墜落を止めることができません。死亡、または重傷を負う恐れがあります。

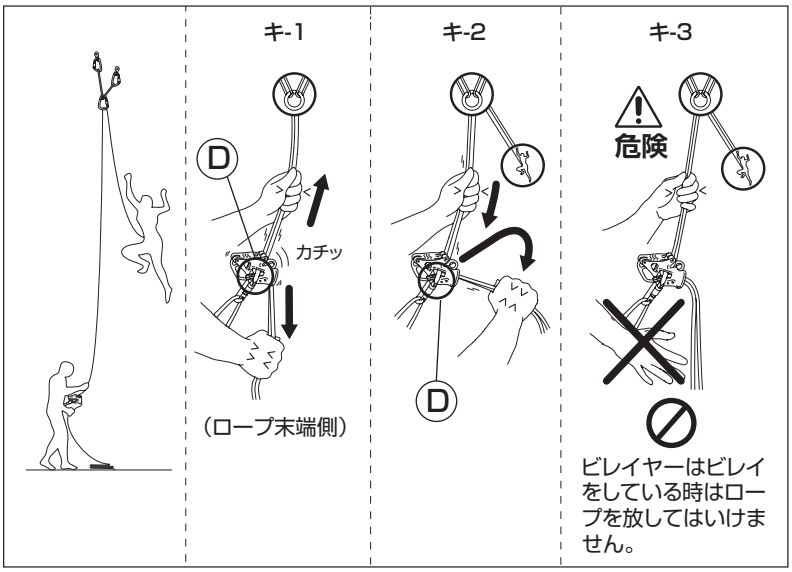
9.1 装着(図キ-1)

器具にロープとロッキングカラビナをセットし、**手順6-1**の要領でロッキングカラビナを前方向に押し出してロープをセミロック状態にしてください。また、クライマー側のロープはハーネスに正しく接続されているか確認してください。

9.2 トップロープのクライマーをビレイする(図キ-2)

クライマーが登り、ロープがゆるんで来るタイミングでビレイヤーは末端側のロープを引き、同時に反対側の手で器具にロープを送り込むようにして操作します。ビレイヤーはクライマーをビレイしている間、末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。

図キ クリックアップモード～器具がセミロックの状態であっても絶対に末端側のロープは放さないでください。

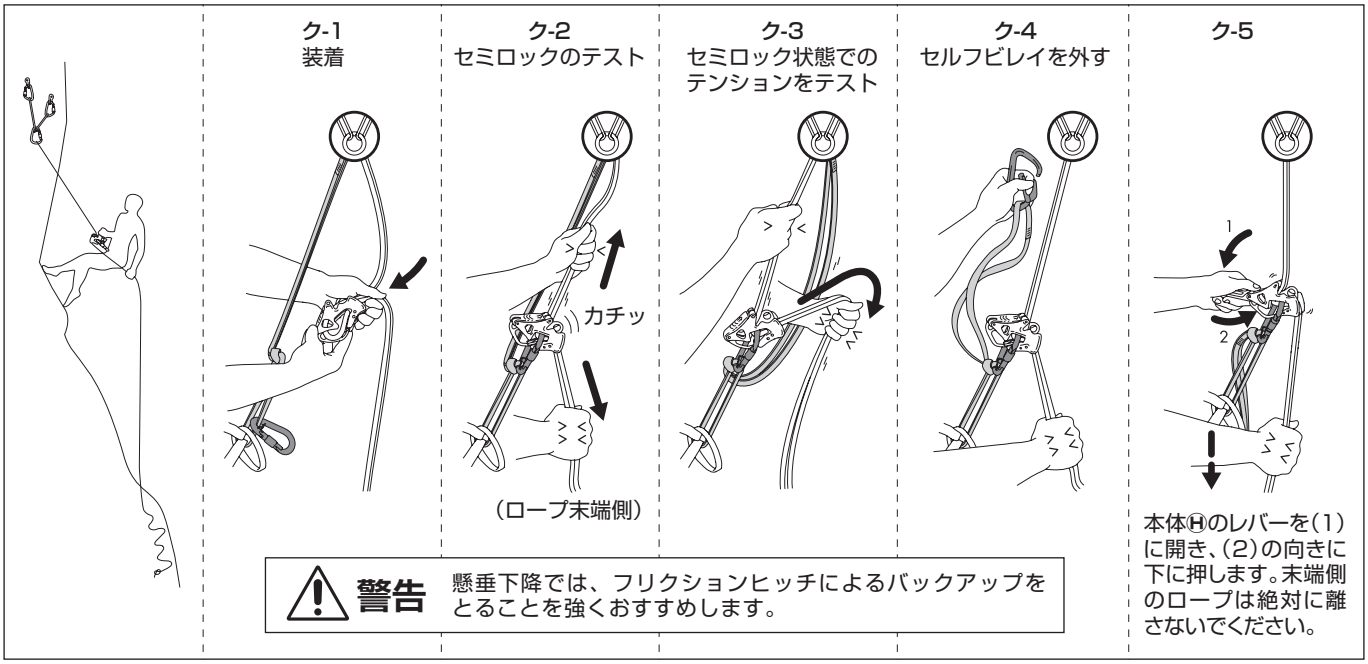


10.クリックアップモード～セミロック状態でのラペリング(懸垂下降)(図ク)

懸垂下降を行う前に、自分自身の安全を確保するために器具をセットする前にセルフビレイをとってください。ロープを下におろす際には結び目ができないように、また絡みを引き起こす捻じれがないことを確認してください。

> ⚠ **注意** アルパインアップでのセミロック状態での懸垂下降は二本のロープ(ダブルまたはツイン)で行ってください。マルチピッチをシングルロープでセミロックをかけて下降するとロープを傷める原因となります。

図ク クリックアップモード～懸垂下降の際には本製品だけではなく、フリクションヒッチによるバックアップをとることを強くお勧めします。懸垂下降中は絶対に末端側のロープを放してはいけません。



> ⚠ **危険** ラペリングを行う際は、いわゆる「すっぽ抜け」と呼ばれる墜落事故を防ぐため、ロープ末端にはビレイ器具を通過せずそこで止まるように結び目を作ってください。結び目がないと、万が一懸垂下降時にロープが下降点まで届いていない場合、墜落の危険があります。

10.1　装着(図ク-1～ク-2)

ラペリングを行うときは、スリングをハーネスに装着し、そのスリングをアルパインアップにセットするロッキングカラビナに装着します。そこで**手順6.2**の要領で、ロープをセミロック状態にします。自身のバックアップをとるため、自身のハーネスに装着したスリングで、アルパインアップ本体の20cm程度下にプルージックヒッチなどのフリクションヒッチをセットしてください。

> ⚠ **警告** ラペリング(懸垂下降)を行うときは、**本体**のクライマーのイラスト**8**部分から伸びるロープが上部のアンカーに固定されていることを確認してください(**図ク-1**参照)。

10.2　セミロック状態でのテンションとテスト(図ク-3)

手順7.2のように余分なロープはたぐりよせてください。セミロック状態にし、自分の体重をかけてテンションを掛け、きちんとセミロックがきいているか確認してください。

10.3　セルフビレイのスリングを外す(図ク-4)

末端側のロープをしっかり握ったまま、反対の手でセルフビレイのためのカラビナをアンカーから外し、ハーネスのギアループ等に取り付けます。

10.4　懸垂下降(図ク-5)

末端側のロープをしっかり握ったまま、反対の手でアルパインアップ本体のオレンジ色のレバー(**図アのⒽ**)を上げ、そのまま下に押し下げるとてこの原理でアルパインアップ本体が傾き、ロープが動きます。下方向のロープ末端側を引いたままにしながら下降を行ってください。オレンジ色のレバーは下げすぎないように慎重に操作してください。

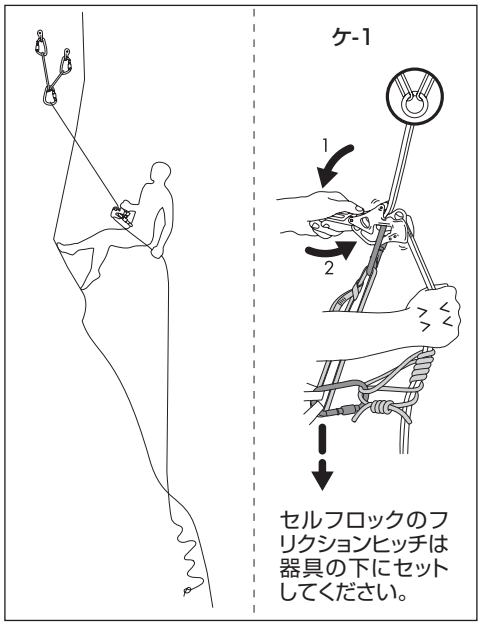
> ⚠ **警告** レバーは無理な方向に押し曲げないでください。破損の原因となります。

11.クリックアップモード～セミロック状態でバックアップをとって下降する

安全のために**図ケ-1**のようにプルージックヒッチなどのフリクションヒッチを利用し、バックアップをとってください。前述の**手順10.1～10.4**で下降を行ってください。

> ⚠ **警告** アルパインアップにバックアップのためのフリクションヒッチが巻き込まれないよう、結び目の位置はアルパインアップ本体位置から最低20cm下にセットしてください。

図ケ



12.クリックアップモード～セミロック状態で特定の状況下で下降をスムーズに行う方法

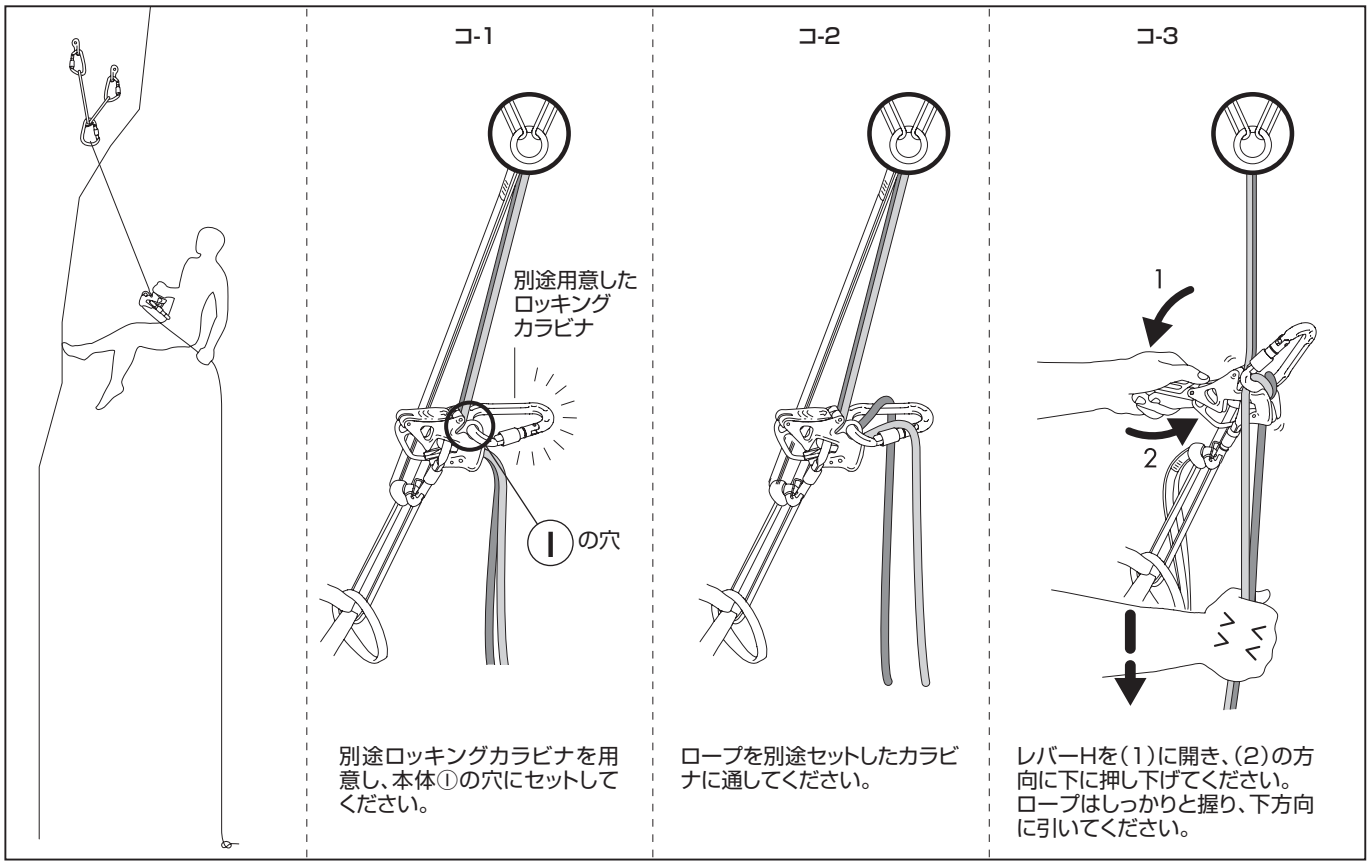
状況によってはセミロックでの懸垂下降が非常に難しい場合があります。たとえばロープの重さが重い場合、クライマーの体重が軽い場合などで、ロープとクライマーの荷重バランスが悪いとうまく下降できません。このような状況でのみ、下降をスムーズに行うためにロープの荷重を抜くことが必要となります。荷重を抜くには次のAまたはBの方法を取ります。

A:アルパインアップの下のロープを少し持ち上げるようにし、ロープの動きをスムーズにします。

B:アルパインアップを**手順10.1～10.2**の様にセットします。もう一つロッキングカラビナを用意し、本体**図ア-2のⒾ**の穴に装着します(**図コ-1**)。アルパインアップ本体から出る末端側ロープの角度を変えるため、ロープをセットし(**図コ-2**)、カラビナのゲートをしっかりと閉じ、**手順10.1～10.3**の要領で下降の準備をし、**手順10.4**の内容で下降を行います(**図コ-3**)。

> ⚠ **注意** フリクションヒッチでバックアップを取った状況(**手順11**)であれば、通常の状況下でもこの**手順12**の方法でスムーズに下降を行って差し支えありません。

図コ この方法はセミロック状態での懸垂下降が困難な時にのみ有効です。

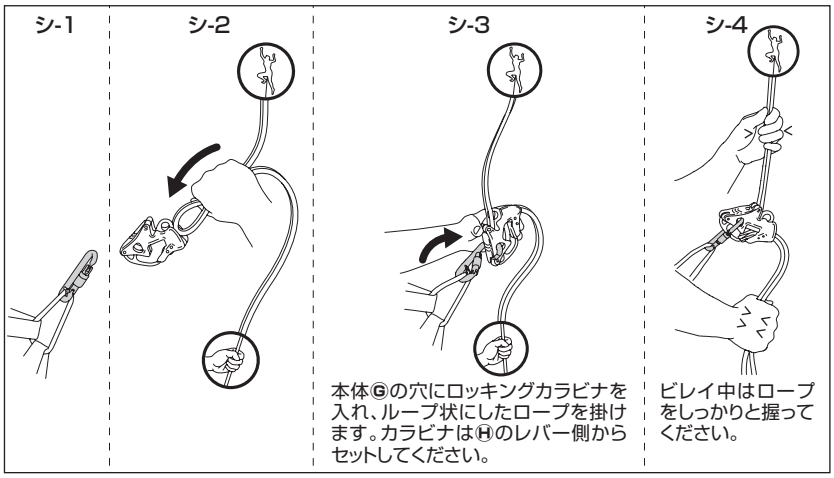


13.ダイナミックモード～装着とセットアップ

13.1　装着

ロッキングカラビナをハーネスに装着します。カラビナのスプリングバーを上げ、ビレイループをそこに入れ(**図シ-1**)、カラビナが回転しないようにします。本体にあるイラスト(**図アの2**、**図アの7**、**図アの8**)を参考にしながら、本体**図アのⒷ**の部分にロープを挿入します(**図シ-2**)。ハーネスに装着してあるロッキングカラビナをアルパインアップ本体**図アのⒽ**のレバーのある方向から**図アのⒼ**の穴に装着します。この時、必ず挿入したロープを掛けるようにしてください(**図シ-3**)。末端側のロープをしっかりと握り、準備は完了です(**図シ-4**)。

図シ　このダイナミックモードはトラディショナルクライミング向けのものです。



14.ダイナミックモード～リードクライマーをビレイする

登高を始める前に、リードクライマーの安全が確保されているかまた、アルパインアップとロープ、カラビナが正しくセットされ、墜落を止めることができる状態にあるか確認してください。またクライマー側のロープが正しく結ばれていることとロープにねじれや絡みがないことを確認してください。

> ⚠ **警告**　末端側のロープは常に握り、下方向に引くようにしてください。

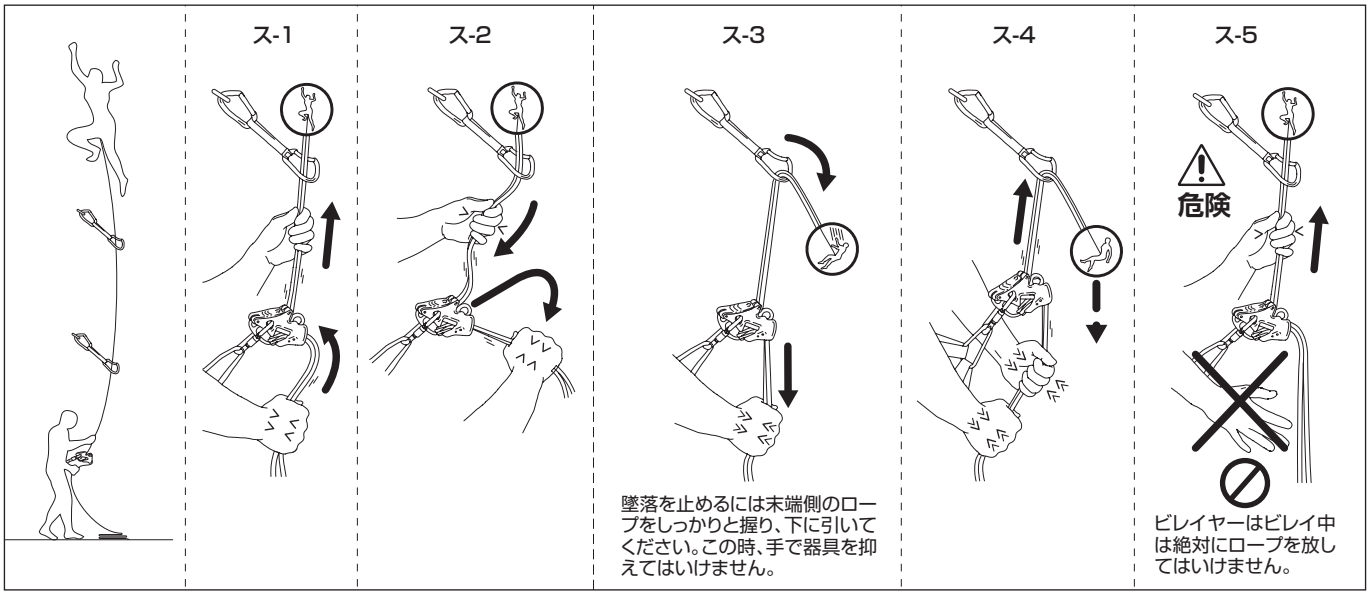
> ⚠ **危険**　マルチピッチルートを登る際、新たなピッチを登高する際は、アンカーや支点からそのルートに向かう方に必ず支点を取ってください。新たなピッチの方向に支点を取らない場合、クライマーが墜落したときにロープが長く出た状態となり、グランドフォール、または岩壁や岩への激突により、死亡または重傷を負う恐れがあります(**図オ-6**、**図オ-7**)。

14.1　クライマーにロープを繰り出す(図ス-1)

ビレイヤーは片方の手で末端側のロープを手繰り余裕を持たせます。もう片方の手(ビレイヤーのクライマー側のロープを握っている手)で器具を通ったロープをクライマーに繰り出します。

> ⚠ **危険**　ビレイヤーはクライマーをビレイしている間、末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。手を放しているとクライマー墜落時に落下し、死亡または重傷を負う恐れがあります。

図ス　クライミングを始める前にクライマーとビレイヤーはお互いに安全点検を行ってください。



14.2　ロープのたるみを引く(図ス-2)

クライマー側に余分なロープが出てしまった場合は、片方の手でクライマー側のロープを引き、もう片方の手でアルパインアップ本体から出たロープを引きます。この時、器具の下側の手は一旦アルパインアップ本体側に寄せるようにするとロープの摩擦が一旦なくなりロープを引くことができます。

> ⚠ **警告**　この作業は素早く行い、余分に出たロープのたるみをとったら再びクライマーの墜落に備えるため、末端側のロープは末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。

14.3　墜落を止める(図ス-3)

ロープをしっかりと握り続け、下方向に引いてください。

> ⚠ **危険**　クライマーの墜落を止めた状態の間、末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。手を放すとクライマーが落下し、死亡または重傷を負う恐れがあります。

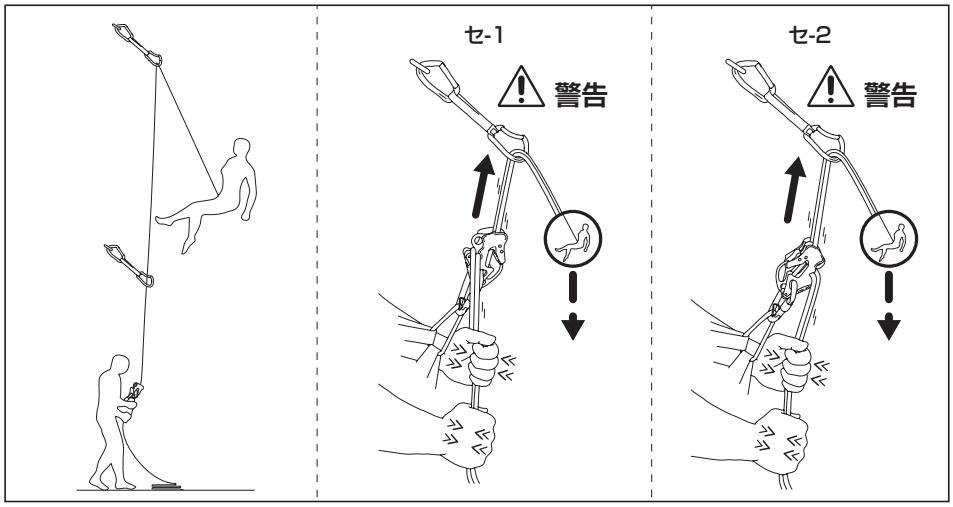
14.4　クライマーをロワーリングする(図ス-4)

テンションのかかったロープは、器具下側を両手でしっかりとロープを握り、少しずつクライマーを下に下してください。

15.ダイナミックモード～装着方法を間違えた場合(図セ)

ロープの装着の向きを間違えた場合、または器具の使用の向きを間違えた場合は、クライマーの登高をやめさせ、安全な場所まで下ろす必要があります。ビレイヤーはロープをしっかりと握り、**本体図3のⒶ**の溝を利用し、摩擦力を使ってロワーリングさせてください(**図セ-1**、**図セ-2**)。

図セ　下記の図セ-1、セ-2は誤った使用方法からの回避方法を示しています。



16.ダイナミックモード～トップロープでのビレイ

> ⚠ **危険**　ビレイヤーはクライマーをビレイしている間、末端側のロープをしっかりと握り続け、下方向に引くようにしてください。手を放しているとクライマー墜落時に落下し、死亡または重傷を負う恐れがあります(**図ソ-3**)。

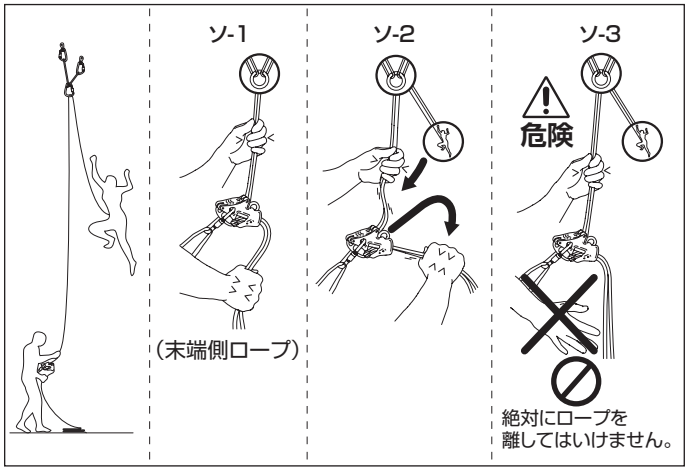
16.1　装着(図ソ-1)

手順13の要領で、器具、ロープをセットしてください。

16.2　ビレイを行う(図ソ-2)

トップロープで登高するクライマーのロープを引くには、クライマー側のロープを片手で引き、たるんだロープの分を器具下側でロープを握った手を上に持ち上げるようにして引きます。ロープを引いた後は下側の手をロープを放さないようにしてずらし、適切な位置でロープを握ります。

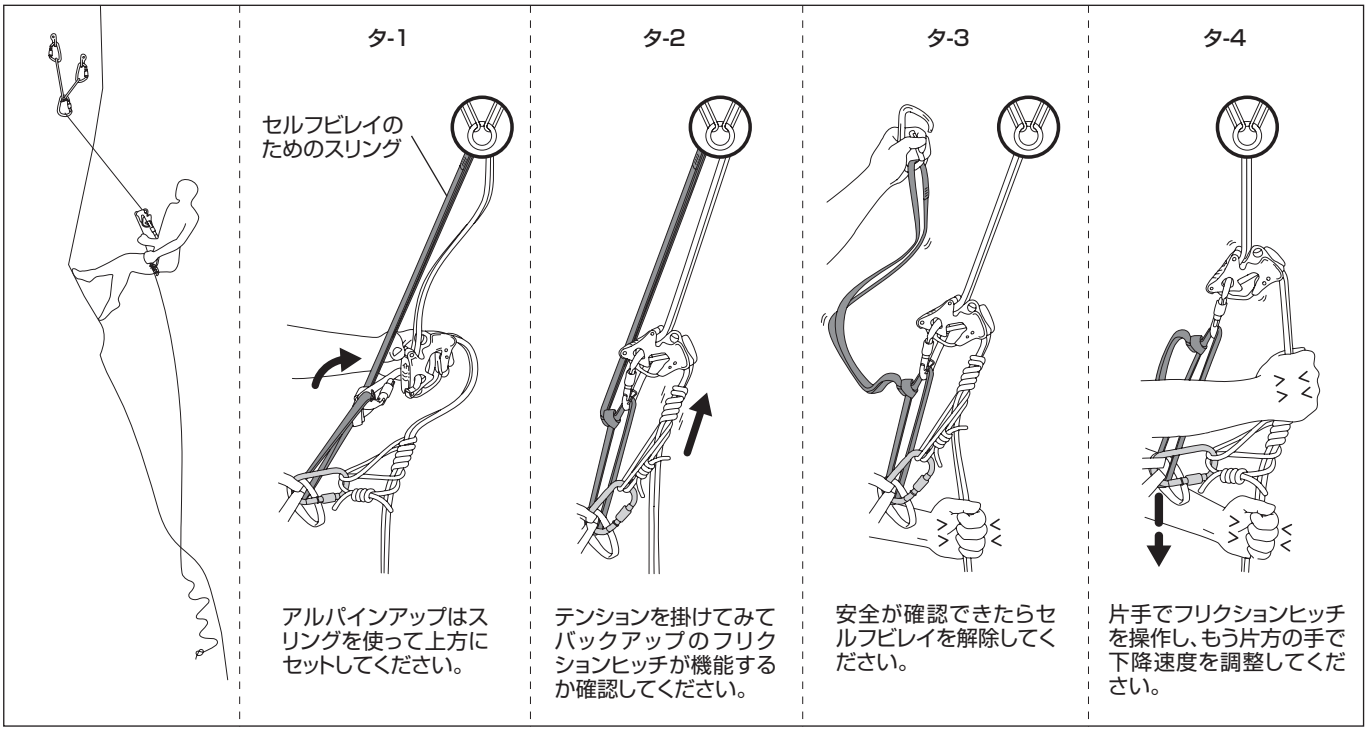
図ソ



17.ダイナミックモードでの懸垂下降(図タ)

懸垂下降を行う前に、自分自身のセルフビレイを取ってください。懸垂下降に使うロープが捻じれていないか確認し、末端に結び目を作り、懸垂下降中にロープ末端が器具を抜けてしまういわゆる「すっぽ抜け」と呼ばれる事故を防いでください。

図タ アルパインアップを使ってチューブ式ビレイ器具の要領で懸垂下降が行えます。必ずフリクションヒッチでバックアップを取ってください。



17.1　装着(図タ-1)

ハーネスに接続した状態で20cm以上の長さを取れるスリングを使い、ロッキングカラビナをそのスリングに接続します。懸垂下降用のロープを**本体図アの**Ⓑの位置に装着し(**本体図アの1**、**図アの7**、**図アの8**のイラストを参考にしてください)、アルパインアップの**図アの**Ⓖの穴にハーネスにスリングで接続されたロッキングカラビナをセットします。アルパインアップ本体の下にスリング用ロープを使ってプルージックヒッチなどのフリクションヒッチを用いてバックアップをとってください。

17.2　バックアップスリングのテンションとセルフビレイのリリース(図タ-2)

セットしたバックアップのためのフリクションヒッチにテンションを掛けて、安全が確保されているか確認がとれればセルフビレイのスリングをアンカーから外し(**図タ-3**)、ハーネスのギアループに掛け、懸垂下降に備えます。

17.3　懸垂下降(図タ-4)

片手でバックアップのフリクションヒッチを操作します。もう片方の手でロープを握って下降の速度を調整します。

18.ガイドモード～上部からセコンドクライマー、サードクライマーをビレイ(引き上げ)する(図サ)

(※HMSロッキングカラビナとカラビナが別途1つずつ必要となります)

18.1　ロープの挿入

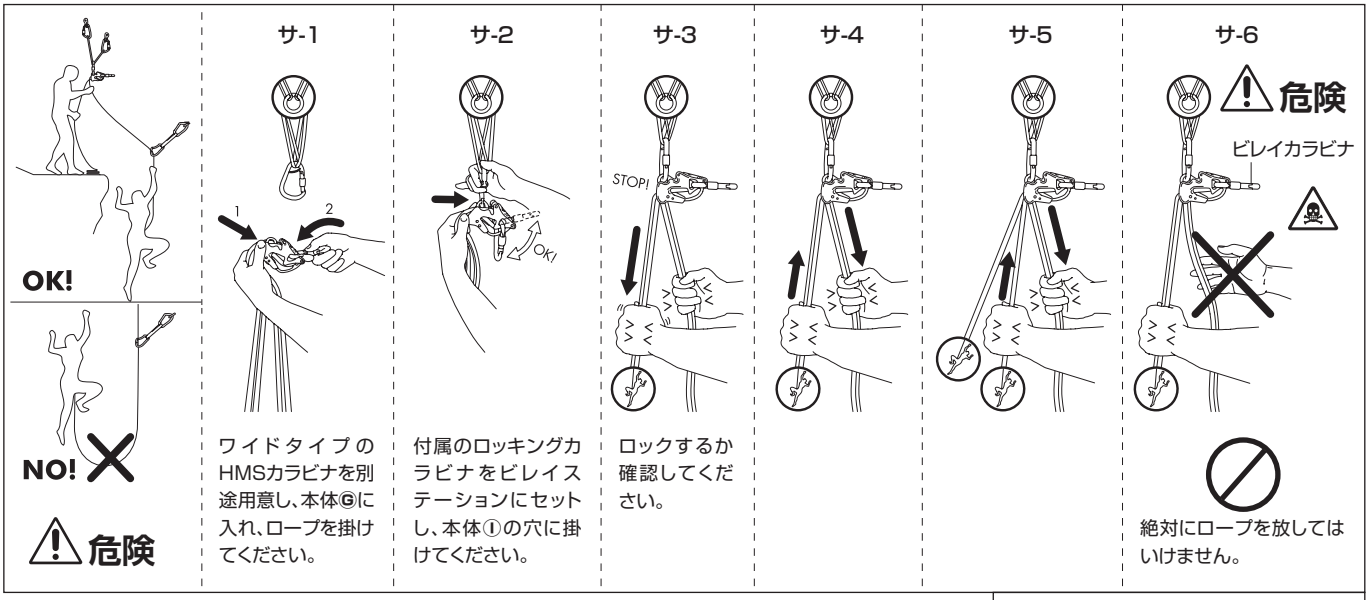
本体図アの16、**図アの17**のイラストを参考にし、ループ状にしたロープをアルパインアップ**本体図アの**Ⓑの部分に挿入します(**図サ-1**)。**本体図アの11**のイラストを参考にし、**本体**Ⓖの穴に別途用意したワイドタイプのHMS(洋ナシ型)ロッキングカラビナを**本体**Ⓗのレバーの位置から装着します。このとき差し込んだロープも一緒にカラビナに通します。付属のロッキングカラビナ(コンセプトSGL HC)を**本体図ア-2の**Ⓘの穴に装着し、このカラビナをアンカーに接続します(**図サ-2**)。ロープがこの**本体**Ⓘの穴がビレイ用の二本のロープの上に来ていること、およびⒼの穴に装着したビレイ用のカラビナが**図サ-2**のOKのイラストの様に動くことを確認してください。

⚠ 警告 引き上げられるクライマー側のロープが上、ビレイヤー側のロープが下にセットされていることを確認してください。逆になっているとクライマーが墜落し、死亡または重傷を負う恐れがあります。

18.2 機能テスト(図サ-3)

実際にビレイを始める前に、クライマー側のロープのロックがかかるか手で引いて確かめてください。

図サ この方法はセコンド、サードクライマーを上方からビレイするときのものです。ビレイを開始する前に正しく機能するか必ず確認を行ってください。ビレイヤーは、クライマー側のロープを手で引いてみてロックがかかることを確認してください。



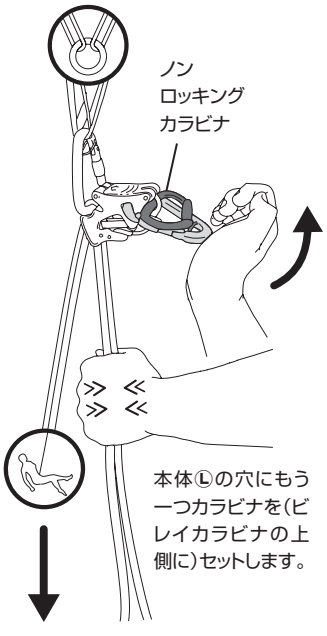
18.3 セコンドクライマー、サードクライマーのビレイ

図サ-4～**図サ-5**の様に両手でロープを操作してください。クライマー側のロープを引き上げると同時に末端側のロープを下に引くようにします。

⚠ 警告 常に両手でロープを操作し、ロープがピンと張った状態を保ってください。

⚠ 警告 ダブルロープまたはツインロープを使用する際は**図サ-6**の様に二本のロープをしっかりと握り、ロープをピンと張った状態に保ってください。

サ-7



18.4 ロープのリリース(図サ-7)

アルパインアップを利用してセコンドクライマー一人をロープにテンションを張った状況でロープをリリースすることができます。カラビナ(ロックなし)を**本体図3のⓁ**の穴にセットしてください。このカラビナは、アルパインアップ本体とロープに掛けたビレイカラビナの上に来るようにセットしてください。ロープの末端は手でしっかりと握り、ロープをピンと張った状態を保ってください。この状態で、ビレイカラビナ(下側にセットされているHMSロッキングカラビナ)を手のひらで上に少し持ち上げるようにすると上側にセットされたカラビナを持ち上げるように作用します。ここでてこの原理が働き、器具が傾くことでロープをリリースすることができます。器具を傾けすぎないように慎重に操作してください。

⚠ 危険 二人のクライマーをビレイ中、ロープをリリースするのは大変危険です。

19.その他一般注意事項

メンテナンス:本製品に腐食やその他のダメージが見られる場合は廃棄し、新しいものに買い換えてください。汚れは使用のつどに落とし、必要に応じてきれいな真水で洗い流し、水をやわらかい布で拭き取り、よく乾燥させてください。海岸付近で使用した際には塩分を良く落とすことが必要です。ロープにダメージを与えないよう、器具の表面は常にバリ、傷、砂等の付着がないことを確認してください。本製品に改造を加えないでください。改造は本製品の本来の機能を損ないます。

20.保管と持ち運び

傷つき防止のため、他のものと分けて保管･運搬してください。保管の際は汚れを落とし、よく乾燥させた後、冷暗所で行ってください。高温になるところ、薬品等に触れる恐れのあるところには絶対に保管しないでください。カラビナは、カラビナにダメージを与えるような他の鋭利なもの、硬いものと一緒に保管、運搬しないでください。濡れたまま保管しないでください。塩分を含んだ空気に触れないようご注意ください。その他器具を傷めないよう運搬には細心の注意を払ってください。特に夏季の車内は高温になりますので、車の中に放置しないでください。直射日光にあたる場所には保管しないでください。

製品寿命: 製品寿命は使用の頻度や使用方法、保管状況によって異なります。また、大きな衝撃を受けた場合、使用時の気候等、その他多くの要因によって変わります。適切なお手入れと保管と運搬は製品を長持ちさせます。なお、プラスチック部品は使用頻度に関係なく製造から10年程度で劣化します。製造から10年経った製品は、ダメージがなく劣化していないように見えても買い換えるようにしてください。また、クライミング技術は常に新しい理論と実技が適用されます。クライマー、ビレイヤー等、本製品の使用者は安全確保に対し常に新しい情報を入手し、正しく安全な方法でクライミングを行ってください。本製品の使用者は、使用前、使用中、使用後には必ず本製品、また本製品と一緒に使用するクライミング用品が正常に機能することを確認してください。また毎年最低1回(頻繁に使用した場合、過酷な状況下で使用した場合はさらに短い期間において)は、クライミングインストラクター等の有資格者から、本製品の使用方法が適切か、器具が正常に機能し、安全を確保できる状態にあるかのアドバイスをもらい、確認を行ってください。なにか製品に不具合が生じていると思われる場合は、本製品を廃棄し、新しいものに買い換えてください。

保証について: 本製品の製造またはその素材に起因する不良については三年間の保証が有効です。お買い上げいただいた際のレシートは製品の保証書の代わりになるものですので、必ず本取扱説明書と一緒に大切に保管してください。

次の場合、保証は有効ではありません:1.お買い上げ後の不適切な輸送、移動時の取り扱いが不適当なために生じた故障･損傷 2.通常使用で発生する傷、磨耗、コーティングのはげなどの外観上の変化 3.不適切な保管方法や誤った使用方法や不注意によって起因した故障･損傷 4.改造、不当な修理による故障･損傷 5.火災･地震、水害、その他天災事故による故障･損傷 6.または前述の事項に準じたその他の要因によるもの
保証期間後の修理･点検等についても本書をご提示ください。

本取扱説明書には著作権があります。ご自分の予備としてのほかはイワタニ･プリムス株式会社の許可なしに複製、公開することはできません。

アルパインアップキット取扱説明書 AP2
2015年8月1日発行
輸入販売元　イワタニ・プリムス株式会社
東京都中央区八丁堀4-12-20
電話番号 03-3555-5605